

【高等学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立佐賀東高等学校
-----	-------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・佐賀県教育大綱Vol.3を踏まえて、高い志と佐賀への誇り、そして偏しさを持った「育太な子ども」を育てること。また、「枠」に取り込まれることなく、失敗を恐れず挑戦を続けながら、個性をのばすことのできるような教育課程及び教育環境等の整備充実を推進していく。 ・多様化する入試環境に対応するために、進路指導体制を強化していく。教科指導力の強化とともに、進路指導力の強化も視野に入れた取り組みを推進していく。 ・スポーツ科の新設を機に、佐賀東高校が唯一無二の学校となるために必要不可欠な要素である「進学実績の向上」と「競技実績の向上」というビジョンを広く世間に周知する。また、そのために、年度末に立てた「学校改革のためのアクションプラン10」を推進していく。
------------------	--

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	・佐賀を愛し、地域社会の振興と発展に貢献することができる人材を育成すること。 ・県唯一のスポーツ科を有する高校として、部活動を活性化し実績を積むとともに、スポーツに関する専門的知識や、高度な技能を身につけた、スポーツで進路を切り拓く人材を育成すること。
----------------------------	---

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー ・学校の核として勉学や部活動に真摯な態度で打ち込み、充実した高校生活を過ごしたいという意欲溢れる生徒 ・将来の夢や目標を持っており、その実現に向けて努力を惜しまない生徒 ・ボランティア活動や地域行事等の地域貢献活動に主体的に取り組む生徒	カリキュラム・ポリシー ・多様な進路希望や興味関心に対応した教育を実践するため、少人数クラス編制や多様な選択科目を設置する。 ・普通科、スポーツ科のそれぞれの特色を生かした教育課程を編成する。 ・総合的な探究の時間において、生徒個々人の進路志望に応じた課題探究活動や地域探究活動を行う。	グラデュエーション・ポリシー ・多様化する社会に対応するための、幅広い教養と高い学力 ・他者を尊重するとともに、他者と協働して、主体的に問題解決に取り組む力 ・誰とでも公平・公正な態度で向き合い、善悪の判断ができる力

4 本年度の重点目標	○「やる気」を伸ばす佐賀東 ～部活動で全国を目指したい気持ち、勉強を頑張って進路目標（進学・就職）を達成したいという「やる気」を伸ばします。～ そのために、部活動の活性化や、少人数クラス編制や特進クラス、スポーツ科の特徴を明確にしながら、全生徒の「やる気」に答えられる環境整備に努める。 ○「地域」に応える佐賀東 ～地域を愛し地域の課題を発見し、地域の人たちと協力しながら、全国で活躍する人材を育てます。～ そのために、北川副小学校、赤松小学校、城南中学校のエリアを中心に、地域の活動に積極的に参加し、地域の中の「佐賀東高校」としての信頼を得る努力を行う。また、「出前授業」などを通して中学校との連携を強め、本校の魅力の発信に努める。 ○「多様な人材」を育てる佐賀東 ～互いを尊重し、時代の流れをつかみ取り自分らしく生き抜いていく人間力を身につける教育活動を実施します。～ そのために、本校が担ってきた役割を学び、先輩方の活躍を知ること、自分たちの未来に無限の可能性あることを再確認させる。また、LGBTQなど、多様な価値観を認め合うことができる学校として、生徒たちに学
------------	--

重点取組内容・成果指標			中間評価	最終評価			
(1)共通評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○生徒一人ひとりに、明確な希望進路を持たせ、それぞれの進路実現に向けた取り組みを実践する。	○進路希望調査における「未定」率が3年生10%未満、2年生30%未満、1年生50%未満 ○3年生の進路実現率95%以上	・多様な進路に応じた、各種ガイダンス等を通じて、生徒一人ひとりの自己理解を深めさせる。 ・模擬試験等を活用して自己の現状と目標との距離を意識させる。	A	・各種ガイダンスの実施や高大連携の取り組みなどを紹介。進路希望調査では「未定」の生徒が3年生で4%、2年生で21%、1年生で18%。	A	・各種ガイダンスの実施や高大連携の促進により、3年生の卒業予定者195名中173名の進路が内定（進路実現率89.7%）。また、国立大前期受験者が18名、私立大専願の合否待ちの生徒が2名。今年度の進路先未定の3年生は2名（1%）となる見込み。1、2年生の進路希望調査での「未定」の生徒は1年生で1%、2年生で21%。 ・自習室やデジタルツールの新設・整備、模擬試験等の結果や復習動画をPC・スマートフォンで手軽に確認できるようにしたこと、自己の現状と目標との距離を客観的に分析できるようになった。
	○基礎学力の定着	○学期に1回の授業アンケートを行い、「授業の中でできた」「わかった」と感じることができるとの回答「かなりそう思う・そう思う」を80%以上にする。	・授業アンケートの結果を精査し、生徒のニーズ・進路実現の観点を意識した授業改善を図る。 ・1回以上の研究授業・授業研究・進路実現を実施し、教職員の授業力向上を図る。	A	・肯定的回答は89%と高かったものの、主体的な粘り強い取り組みに対する肯定的回答は70%台に留まった。やればできるという感覚の育成に改善の余地がある。	A	・授業の中で「できた」「わかった」と感じることができたという肯定的回答は82%。進路決定に向けて生徒自身が自律・自立した学習ができる習慣や方法を身に付けさせることができた。
	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○特別指導措置における人間関係トラブル（いじめ・SNS等）件数を2件以内 ○特別指導件数5件以内 ○「いいね！」カード発行50枚以上	・防犯講話やHR活動等において、情報モラル教育、人権教育を実施 ・指導カードを活用し早期サインに気づき早期対応を行う。 ・いいねカードの内容を全校にアナウンスする。	A	・いいねカードについて表彰された生徒が、就職面接における自己アピールの中に取り入れるなど、自己有用感の構築につながっている。 ・アクションプラン10の実現に向けた取組を行うことができた。 ・特別指導件数は5件以下であったが、対応の難しさも感じた。	A	・生徒たちの表現する力が上がっていることが感じられる。生徒の日常の活動をしっかりと見て評価していたければと思う。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ●担任・学年と連携を図り、困難を抱えている生徒の早期発見、早期対応を目指す	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめ等の防止等のための取組、事業対処等）について組織的対応ができていると回答した教職員80%以上	・いじめの認知・認知に対する対応マニュアルの作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。	A	・学校生活アンケート、いじめ等について早期に把握でき、対応策を考える機会を確保した。 ・SC、児童相談所、行政との連携、情報共有ができた。	A	・サポートルームの活用など、しっかりと手立てを取ってある。保護者や関係機関との連携を密にして学校運営にあたられている。教職員が一丸となり、学校全体で共通認識を持って、生徒の安心・安全のために尽くしてほしい。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる」とどちらかというと感じた生徒80%以上 ★郷土の人材を活用した講演会等、各学年・年間1回以上	・各地域の郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む。 ・郷土の人材を活用した講演会を実施する。	B	・「佐賀語り」やDVD等を活用した授業を学期1回行った。また、3学期には、佐賀県の魅力を生徒に伝える劇を上演、「郷土の価値を再認識できた」と感じることができた。アンケートについては年度末に実施。	B	・「佐賀語り」やDVD等を活用した授業を学期1回行った。また、3学期には、佐賀県の魅力を生徒に伝える劇を上演、「郷土の価値を再認識できた」と感じることができた。アンケートについては年度末に実施。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒70%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行、保護者への個別の連絡	A	・熱中症予防について、生徒用・職員用を1度配布し、カードの作成も実施できた。	A	・今年度血圧についての講演を実施。事前アンケートの実施から、資料作成、事後アンケートの実施、後援を兼ねた保健だよりの作成と、保健委員生徒とともに連携し、外部講師と協力しながら、生徒の健康関心の高い活動ができた。
	○安全に関する資質・能力の育成	○交通安全に関する資質・能力の育成	○交通安全に関する資質・能力の育成	B	・交通安全に関する指導を5件以上受けた。継続的に、学校付近の交通安全に気を配るよう呼びかけや指導を継続して行っている。	B	・交通安全に関する指導を5件以上受けた。継続的に、学校付近の交通安全に気を配るよう呼びかけや指導を継続して行っている。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化、平準化の推進と時間外在校時間の削減	●時間外在校等時間の上限を遵守する。定時退勤日の設定や職員朝礼は隔日（月金）開催、会議終了時刻を明示するなど、業務削減を実施する。年間を通して月平均45時間超過者を10人以下にする。また、年間年休取得日数14日を目標とする。	・勤務体制の整備、業務の平準化を進める。 ・部活動休業日と年休取得を積極的に推進する。 ・業務削減（縮小）を具体的に示し、教職員の労働環境整備に努める。	B	・中間評価時点で、年間を通して月平均45時間超過者が15人。年間年休取得日数12.2日となっている。 ・業務の平準化をしっかりと進めていかねばならない。	B	・全体的にやや時間外在校等時間が増加した。 ・年間を通して月平均45時間超過者が15人。年間年休取得日数12.2日であった。目標には及ばなかったものの、前年度より削減された。 ・業務の平準化に向けた取組が不十分である。
	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有	B	・特別支援教育に関する研修会の実施、ケース会議の開催、関係者間での情報共有は概ねできている。	B	・職員間の情報共有を積極的に進めたため、生徒や保護者への対応もスムーズに行うことができた。また、専門機関との連携を図り、支援の幅も広がった。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
★唯一無二の誇り高き学校づくり ○県内外への学校情報の発信	★新たに生徒広報部、学校公式アイドルを設立し、本校生徒の目標による学校情報や佐賀の魅力の発信を行う。 ★県内外の中学生、保護者や外部を対象とした、「唯一無二の誇り高き佐賀東高校」の積極的な情報発信を行う。 ★本校生徒による出前講座、地域ボランティアの取材・情報発信を主とした「社会に開かれた学校」をPRする。	○学校新聞「飛翔」の月1回以上の発行、公式キャラクター「ガッチ」を利用した学校紹介動画、学校案内パンフの作成 ○佐賀東高校広報部Instagramの総登録者数1,000名以上、TikTokの総登録者数1,500名・350万回再生以上 ○SAGAハイスクールウェブサイトの動画再生回数100回以上、再生回数100回以上 ★東高公式アイドルとして曲を一曲以上発表する。 ★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合60%以上、教職員の割合75%以上	・生徒広報部が主体となり、部活動紹介動画や学校案内動画を制作し、SNSで発表する。 ・公式キャラクター「ガッチ」について、イベントやSNSへの登場機会を増やし、広報の目玉とする。 ・TikTok映像とQRコードを活用し、魅力ある映像を手軽に閲覧できる状況をつくる。 ・地域で活躍する卒業生たちの取材を行い、情報を発信する。 ・学校改革企画委員会を開催し、高校魅力化の取組みを強化する。	A	・TikTokの総再生回数は2月11日時点で375万回となり、目標を大きく上回った。登録者数も目標を250人上回った。 ・生徒広報部を編成し、SAGAハイスクールウェブサイトを制作した。再生回数は県で1位を記録し、2位の佐賀女子高校の約2倍を記録した。 ・学校公式アイドル「E-Start」を結成し、作詞作曲を経てインシングル曲を発表した。テレビやYouTube、YouTubeに取り上げられ、大きな反響となった。	A	・TikTokの総再生回数は2月1日時点で440万、登録1,900人以上となった。 ・学校祭映像を4ヶ月かけて独自に編集制作し、業者提携しCD制作に取り組んだ。 ・指原地区、兵庫地区のイベントで公式キャラクター「ガッチ」を生出演させ、テレビ映像にも複数回登場させて知名度を上げることができた。 ・2月下旬にKBC九州朝日放送やSNS「あの日の放課後」と連携をとって映像制作をすることになった、学校広報として飛躍の年となった。
	○実践的・体系的な活動の充実	○地域への貢献活動(ボランティア) ◎互いを尊重し、主体的に取り組む生徒会組織を目指す ○佐賀東「SDGs」の推進	○1年間で奉仕活動に参加したことのある生徒70%以上 ◎生徒会活動に関するアンケートを実施し、「主体的に参加できた」の回答80%以上 ○「佐賀東SDGs宣言」の重点目標を理解し、「しっかりと取り組めた・だいたい取り組めた」の回答90%以上	A	・各学年間と協力し、生徒への参加を促す。また、部活動単位でも参加するように、顧問との連携を強化する。 ・全校生徒に、生徒会の一員であるという自覚をもたせ、生徒会役員を中心に様々な活動を行う。 ・重点目標を4つに絞り、教室掲示や担任を通して、常に意識付けを行う。	A	・河川清掃活動など地域の方々からお礼の言葉を多くいただいた。アンケートはまだ実施できていないので、年間を通して、80%を目指していく。
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり							
6 総合評価・次年度への展望			・唯一無二の佐賀東高校であるための、生徒指導・進路指導の充実と、部活動の振興と地域に信頼される学校づくりを推進していく。 ・多様化する入試環境への対応のため、教科指導力及び進路指導力の強化のための取組を推進していく。 ・スポーツ科の円滑な運用をはじめとする、生徒の個性伸長のための教育課程の編成及び教育環境の整備充実を推進する。				